

真名井遺跡 (命主社)

～天地万物創造の神を祀る神社とその背後に座す磐座～

目次

1. おすすめポイント
2. 説明
3. 現地写真
4. 命主社
5. アクセス

資料番号

E5

初版：2025.12.17



1. おすすめポイント

★樹齢千年と言われるムクノキと社殿、そして磐座の組み合わせは正に悠久の時を感じさせます

- ・銅戈と翡翠勾玉が埋納されていた磐座なんて極めて稀です（超HG、意味深！）。弥生人の思いの強さが伺われます。
- ・異形とも言えるムクノキのお姿は千年という長きにわたり際限のない人々の業を見てこられたからでしょうか・・・

★出雲大社の中でも特別な存在感を放っています

- ・素鷦社とともに非常にミステリアスで魅力的な存在です

2. 説明

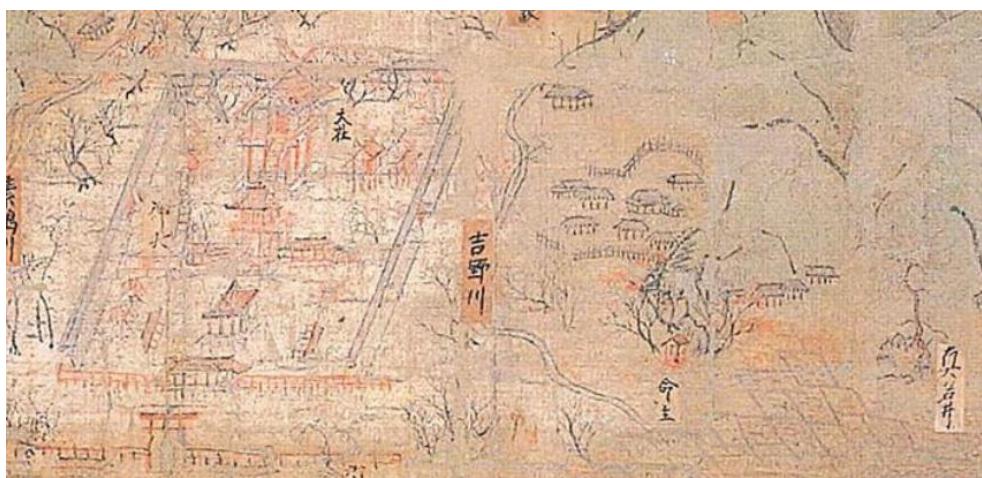
【出雲大社境内遺跡発掘調査報告書（参考文献1）より】

- ・出雲大社の東方約200mに位置する。摂社である命主社背後にある巨岩の下から、**銅戈**1を含む**武器型青銅器**4点と、硬玉（翡翠）製**勾玉**1点が出土
- ・**青銅器を玉類と併せて埋納**している点と、さらに巨石の下に数度に分けて**継続的に埋納**している点を特徴とする。
- ・当地から約300mの至近にあり、最近発見された**五反配遺跡**で水田の経営主体となった共同体が、人為による耕地と自然域である山系との境界であるこの地に埋納したのではないか

【出雲大社との関係（現在は摂社）】

- ・**命主社は巨石（磐座）に向けて建てられている**（※）ことから、もとは巨石（磐座）を奉斎する形であったものと考えます（「磐座前に社」の古社典型形態の一つ）。
- ・「天地万物の根本の神」を祭神としており、元旦に国造以下、神職が訪れ、祭祀を行うことや、下図（1248年の遷宮の頃の境内を描いた図）でも**命主**と特記されている（現在の境内図にも掲載）ことから、出雲大社もこの社（ひいてはこの磐座）を**特別視**しているものと考えられます。

（※）参道を進んで社に正対すると後ろをわずかに左（磐座側）に傾けて建っていることに気づきます（3章 3-4参照）



◆1248年（宝治2年）正殿式遷宮の頃を描いたと思われる図

参考文献1
巻頭図版6より抜粋



3. 現地写真

2025.12.9



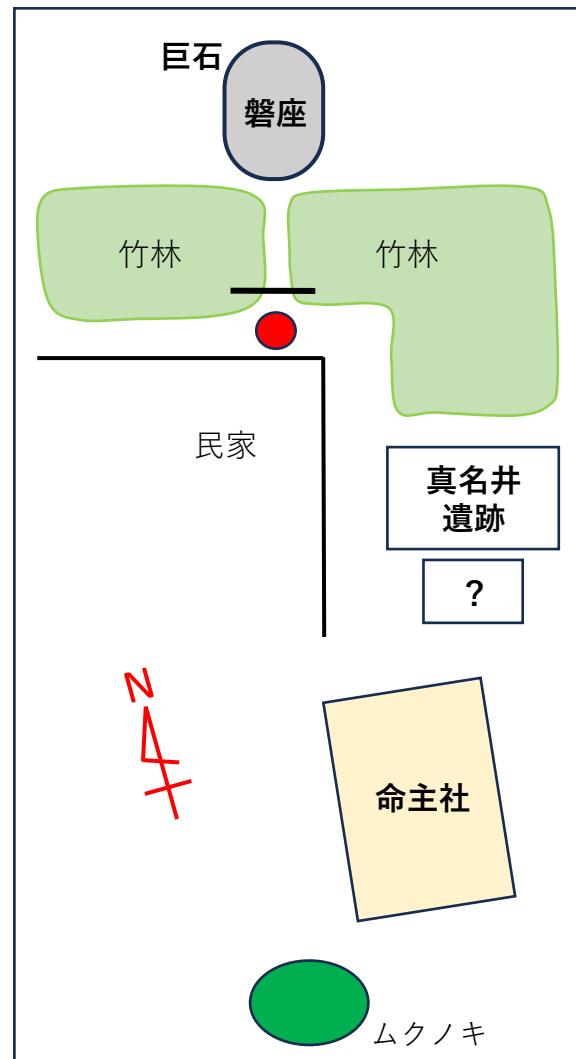
3-1 竹藪の奥に巨石（磐座）<●の位置から>



3-2 「真名井遺跡」・・これは何？？
手前には建物があった？のか基壇が



3-3 命主社の右手奥に「真名井遺跡」



3-4 平面図

「真名井遺跡」とあるブロック塀で囲まれた地に巨石らしきものがないのでモヤモヤしながら帰られる方が多いようです。

竹林から先は禁足地のようです。
磐座は上図（3-4）の●の位置から遙拝しましょう。

命主社が巨石（磐座）の方を向いていることに注意してください。

4. 命主社（いのちぬしのやしろ）

2025.12.9



4-1



4-2 夏のムクノキ

2014.5.1



4-3



4-4

5. アクセス



5-1

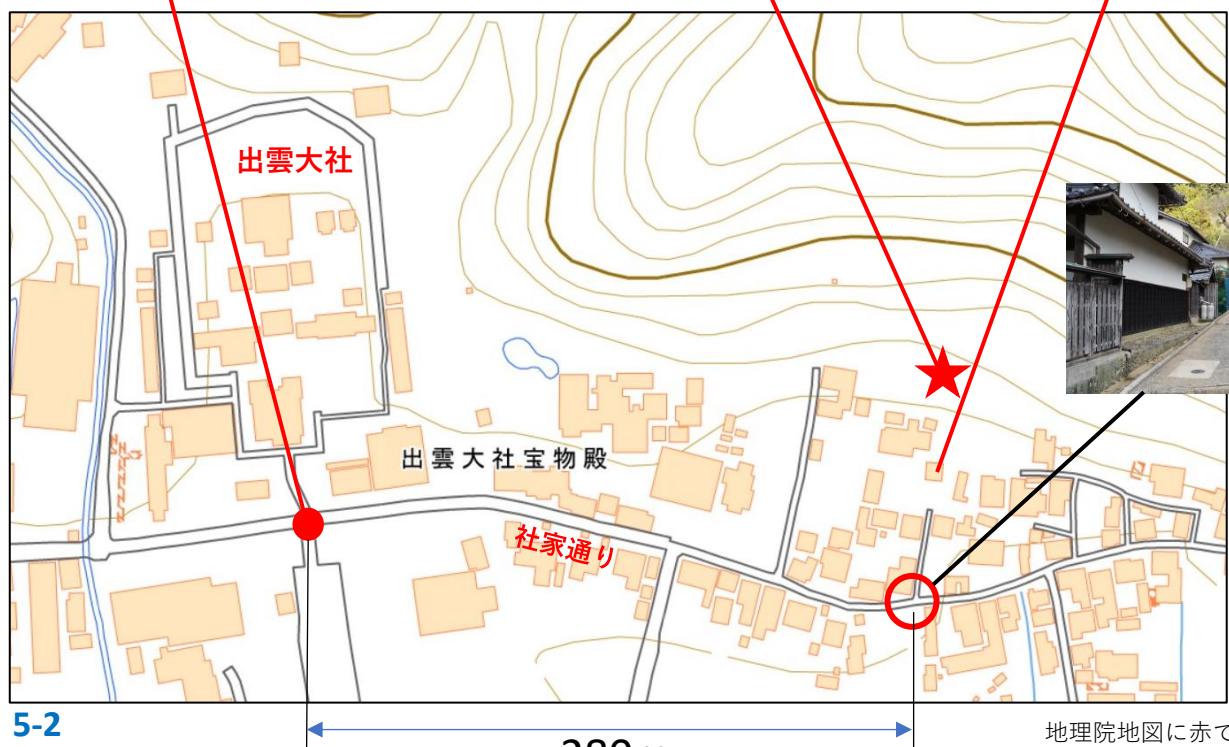
Google Mapに赤黄で追記

N
↑

銅鳥居

巨石 (磐座)

命主社



5-2

280m

地理院地図に赤で追記

5-3

参考文献

1) 出雲大社境内遺跡. 大社町教育委員会, 2004, 507p.

※発掘調査報告書